

公益社団法人 日本水産学会
平成 29 年度第 6 回理事会議事録

- 1 開催された日時 平成 29 年 12 月 9 日(土) 13 時 00 分～15 時 44 分
- 2 開催された場所 国立大学法人東京海洋大学品川キャンパス
2 号館 2 階 200A-2 会議室(東京都港区港南 4-5-7)
- 3 理事会総数及び定足数
総数 20 名, 定足数 11 名
- 4 出席理事総数 17 名
(本人出席) 秋山秀樹, 荒井克俊, 荒井修亮, 岡崎恵美子, 菅野信弘, 木島明博, 佐藤秀一, 青海忠久, 塚本勝巳, 中田英昭, 萩原篤志, 山下伸也, 山下 洋, 山本民次, 良永知義, 和田時夫
(途中出席) 黒倉 寿(決議事項 第 1 号議案「会費免除承認」審議中の 13 時 2 分に着席)
(監事出席) 青木一郎, 北田修一
(幹事出席) 糸井史朗, 岩田繁英, 小林武志, 近藤秀浩, 芳賀 穰, 浜崎活幸

5 議 案

決議事項

- 第 1 号議案 「会費免除承認」の件
- 第 2 号議案 「理事の職務権限規程の一部改正」の件
- 第 3 号議案 「短時間勤務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件
- 第 4 号議案 「平成 29 年度日本水産学会賞各賞受賞者の決定」の件
- 第 5 号議案 「Fisheries Science の契約更改」の件
- 第 6 号議案 「Fisheries Science 84 巻における会員販売促進の継続」の件
- 第 7 号議案 「理事会主催シンポジウム」の件
- 第 8 号議案 「平成 30 年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件
- 第 9 号議案 「日本農学会 会長・副会長・監事候補者の推薦」の件
- 第 10 号議案 「平成 30 年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件
- 第 11 号議案 「入会承認」の件

報告事項 第 5 回理事会以降の職務執行の状況
その他

6 議事の経過及びその結果

(1) 定足数の確認等

塚本会長が定足数の充足を確認し, 続いて本会議の議事進行について説明があった。

(2) 議案の審議状況及び議決結果等

定款の規定に基づき, 塚本会長が議長となり, 本会議の成立を宣言し, 議案の審議に移った。

(決議事項)

第 1 号議案 「会費免除承認」の件

良永総務担当理事から, 伊藤正一, 大和田紘一, 河合真一郎, 川崎賢一, 柴 眞, 関 伸夫, 高村 仁, 中村幹雄, 林 征一, 山内皓平, 山口 皓及び和田克彦, 各会員の会員に関する規則第 5 条(1)に基づく会費免除申請について説明があった。審議の結果, 申請のあった 12 名の会員の会費を平成 30 年度から免除することを出席理事全員一致で可決した。

第 2 号議案 「理事の職務権限規程の一部改正」の件(別紙 1)

良永総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第3号議案 「短時間勤務有期雇用職員就業規程の一部改正」の件（別紙2）

良永総務担当理事から、原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で別紙の通り可決した。

第4号議案 「平成29年度日本水産学会各賞受賞者の決定」の件

荒井(克)学会賞担当理事より、9月25日に開催された学会賞選考委員会において審議した平成29年度日本水産学会各賞の受賞者候補者について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で以下の通り可決した。

日本水産学会賞

上田 宏 「太平洋サケの母川記銘・回帰機構に関する研究」

佐藤秀一 「持続可能な水産養殖飼料の開発に関する研究」

日本水産学会功績賞

該当者なし

日本水産学会進歩賞

遠藤英明 「魚類の健康診断バイオセンサの創出に関する研究」

澤山茂樹 「微細藻・菌類の分子育種等水産微生物学的研究」

長井 敏 「有害・有毒プランクトンモニタリング技術の高度化と応用」

水産学奨励賞

井ノ口繭 「魚類の浸透圧調節における鰹塩類細胞の機能形態学的研究」

黒木真理 「ウナギ属魚類の初期生活史に関する生態学的研究」

澤山英太郎 「家系判別による養殖親魚の形質評価に関する研究」

柴加田知幸 「赤潮プランクトンの光生物学的解析と赤潮軽減技術への応用」

入路光雄 「小型浮魚類の生殖内分泌制御機構と繁殖特性に関する研究」

水産学技術賞

木村郁夫 「生体内 ATP を利用した高品質冷凍水産物の製造・流通技術の開発」

阪倉良孝 「海産仔魚の飼育環境制御技術に関する研究」

第5号議案 「Fisheries Science の契約更改」の件

良永総務担当理事から、Fisheries Science の契約更改について新しい契約書案の説明があった。

本議案について、以下の質疑応答があった。

和田理事「著者負担金による収入は和文誌も含めての金額か。」

良永理事「和文誌も含めてである。」

北田監事「FSの掲載論文数とページ数は漸減している。一方、水産学会のRoyalty収入は論文数の減少にも関わらず2015年度まで増加しており、経営的には収入の見込めるジャーナルであることを示唆している。Royalty収入が2016年に急減し赤字に転落しているが、この理由はわからない。提示されたRoyaltyの割合は交渉する余地がある。水産学会の主要事業の一つであるFSの出版契約にあたっては他社の見積りを含め、慎重に対応していただきたい。」

黒倉理事「掲載論文数を上げると、出版社の収入が増える。論文のダウンロード数は不明。投稿数を増やして掲載数を絞り、ダウンロード数を維持したほうが利益は上がる。団体会員等への配布部数を維持せずに、収支を考えるのも一案である。」

良永理事「原案を認めるか、否決するかを選択肢しかない。原案の修正案はありえないであろう。議案として、出さないと結論が出ないため今回議案として提案した。原稿のまま維持して、他社に見積もりを取り一年後に契約更改を申し出るのも一案であ

る。」

青海理事「契約を更改または終了する場合には、前もって申し出る必要はあるか。」

良永理事「新方式の申し出があったが、このような事案はいつでも起こりうる。どのタイミングで更改するかを考慮しておくべきであろう。契約終了1年前くらいに検討するのがよいか。」

佐藤理事「3年または5年契約である。」

青木監事「工業製品ではないので、安ければ良いわけではない。判断基準を前もって決めておいた方が良いのではないか。」

佐藤理事「相見積を取る場合、日本の他学会がどうなっているかを調べておいた方が良い。アメリカ水産学会が Taylor & Francis から Wiley に変更した。どうなっているか尋ねてみる。」

北田監事「ジャーナル全体を理解する上でウェブプラットフォームは重要であるが、Springer よりも Wiley のほうが標準的で、投稿ページへの導入も分かりやすい。」

審議の結果、本議案は継続審議とし、印刷部数の変更や他社との比較を検討することを出席理事全員一致で可決した。

第6号議案 「Fisheries Science 84 巻における会員販売促進の継続」の件

良永総務担当理事から、Fisheries Science 84 巻における会員購読促進の継続について説明があった。審議の結果、会員販売促進の継続を出席理事全員一致で可決した。

第7号議案 「理事会主催シンポジウム」の件

和田将来計画担当理事から、理事会主催シンポジウムについて原案の説明があった。審議の結果、講演者の一部を修正の上、出席理事全員一致で可決した。

本議案について次の質疑応答があった。

塚本会長「シンポジウムを記録で残してほしい。」

和田理事「和文誌に記録を掲載する。」

第8号議案 「平成30年度日本農学賞受賞候補者の推薦」の件

荒井(克)学会賞選考担当理事より、平成30年度日本農学賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第9号議案 「日本農学会 会長・副会長・監事候補者の推薦」の件

良永総務担当理事より、日本農学会会長・副会長・監事候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で原案の通り可決した。

第10号議案 「平成30年度日本農学会評議員及び運営委員の選出」の件

良永総務担当理事より、平成30年度日本農学賞受賞候補者の推薦について原案の説明があった。審議の結果、出席理事全員一致で次の通り可決した。

[選出] 評議員 佐藤秀一、良永知義 (平成30年3月28日以降に交代予定)

[選出] 運営委員 渡邊壮一

第11号議案 「入会承認」の件

審議の結果、出席理事全員一致で原案通り可決した。

(報告事項)

第5回理事会以降の職務執行の状況

・会長

塚本会長より、次の報告があった。

- 1) 85周年記念国際シンポジウムの会期中に若手の会のシンポで基調講演を行った。
- 2) 12月2日に開催された「海とさかな」自由研究・作品コンクールの表彰式に出席し、日本水産学会会長賞を授与した。

・庶務関係

良永担当理事より、次の報告があった。

- 1) 平成 30 年度支部幹事選挙結果が報告があった。
- 2) 理事候補者の選挙結果が報告があった。
- 3) 資格喪失者（会費未納）の会費納入による退会者への変更について報告があった。
千葉周作（正会員，平成 28 年度資格喪失）
- 4) 学会事務職員の期末手当について報告があった。
- 5) 協賛および後援について次の 2 件の報告があった。これらは、共催，協賛，後援の取り扱い申し合わせ 3) を適用した。

第 20 回マリンバイオテクノロジー学会大会

主 催 マリンバイオテクノロジー学会

協 賛 化学工学会 他 21 学協会

日 程 平成 30 年 5 月 26 日(土)・27 日(日)

場 所 フェニックス・シーガイア・リゾート・コンベンションセンター
(宮崎県宮崎市)

希 望 協賛

負担金なし

第 55 回アイソトープ・放射線研究発表会

主 催 日本アイソトープ協会

協 賛 応用物理学会 他 61 団体(予定)

日 時 平成 30 年 7 月 4 (水) ~ 6 日(金)

場 所 東京大学農学部弥生講堂(東京都文京区)

希 望 後援

負担金なし

・企画広報関係

佐藤担当理事より、第 6 回委員会を 11 月 2 日に開催し、通常の業務に加え、日本水産学会誌の E ジャーナル化について議論したとの報告があった。

・財務関係

萩原担当理事より、事業計画・予算書と事業報告・決算報告の提出期限について報告があった。

・編集関係

黒倉担当理事より、次の報告があった。

- 1) Fisheries Science 誌の表紙が変わる。
- 2) 論文賞の選考を行い 1 月に決定する。

・学会賞関係

荒井(克)担当理事より、平成 29 年度日本農学進歩賞について推薦したが、受賞には至らなかったとの報告があった。

・シンポジウム関係

木島担当理事より、次の報告があった。メール会議により平成 30 年度春季大会で 2 件のミニシンポジウム「タイラギの種苗生産の最新技術と養殖について」、「三陸サケの回帰技術の向上について」の開催が決定した。シンポジウムは 2 件決定済み。各委員会とのシンポジウム情報の共有を実施している。

・出版関係

木島担当理事より、次の報告があった。

- 1) 水産学シリーズの後継について、E ブックとして出版する方向で委員会で検討を進めてい

る。シンポジウムに加え、シンポジウム以外のものについても検討が必要である。出版時期について意見集約しており、次回委員会（1月9日）で検討する。

2) 水産学シリーズの英文化について。前向きな意見が多いが、費用の面などについて議論が継続中である。

・水産技術誌監修関係

秋山担当理事より、次の報告があった。12月8日企画・編集委員会を開催した。水産研究・教育機構の編集事務局の作業が多いので編集の補助業務を外部委託することとする。レベルの維持と守秘義務を要件とする等指摘があり、次回委員会で検討する。

本報告について次の発言があった。

山下(洋)理事「外部委託費用はどうするか。」

秋山理事「水産研究・教育機構が支出することとしている。」

・国際交流関係

和田担当理事 特になし

・水産教育関係

荒井(克)担当理事より、平成30年度春季大会における水産高校の先生方との協議会の開催について、及び第36回「海とさかな」自由研究・作品コンクールについて報告があった。

・水産政策関係

黒倉担当理事 特になし。

・漁業・資源管理関係

荒井(修)担当理事より、平成30年度漁業懇話会奨励賞の受賞者(3名)を決定したとの報告があった。

・水産利用関係

菅野担当理事 特になし。

・水産増殖関係

木島担当理事より次の報告があった。9月21日に委員会を開催し、平成30年度第1回講演会を決定した。テーマは「内水面漁業の現状と課題：漁場環境の再生に向けて」、3月30日に開催予定である。

・水圏環境関係

山下洋担当理事より次の報告があった。

1) 12月8日にシンポジウム「我が国における沿岸域環境の現状と問題点、および将来展望」を沿岸環境関連学会連絡協議会と共催で開催した。

2) シンポジウム「貝類の適正養殖(現状と将来への展望)」を3月26日に開催する。

・男女共同参画関係

岡崎担当理事より、次の報告があった。

1) 男女共同参画学協会連絡会によるアンケート調査が終了した。アンケート総回答数は約18159人で、結果は公開されている。

2) 前回は分析して日本水産学会としても公開した。今後同様な対応を検討している。

本報告について次の発言があった。

佐藤理事「アンケートの解析は、東京海洋大学と協力するのか。」

岡崎理事「東京海洋大学との協力は行えず、水産学会単独で解析を行う。3月の委員会で概要を報告する。」

・社会連携関係

塚本会長 特になし

・将来計画関係

青海担当理事より、各委員会からの将来に向けてのアンケートをふまえて理事会シンポジ

ウムを企画している旨報告があった。

・北海道支部，地域連携関係

塚本会長より，12月9日・10日に北海道大学（札幌）にて支部大会，支部幹事会，若手の会主催講演会並びに公開シンポジウム「魚港（みなと）で漁業（いさり）を考える」を開催との報告があった。

・東北支部，地域連携関係

秋山担当理事より，次の報告があった。平成28年度日本水産学会東北支部大会，支部幹事・連絡調整員合同会議とミニシンポジウムを10月28日と29日に開催した。参加者総数47名であった。

この件について以下の発言があった。

黒倉理事「東北以外にも発信することを考えても良いのでは。」

山下(洋)理事「東日本大震災災害復興支援検討委員会と連携して考えては。」

塚本会長「そのような機会はあるか。」

山下(洋)理事「委員会には，東北大学及び水産研究・教育機構からも委員に入ってもらっているので問題はない。」

・関東支部，地域連携関係

菅野担当理事より，平成30年度春季大会の準備状況について次の報告があった。)高校生の発表のための受付をメールでするのではなく，ウェブで申し込めるシステムをトーヨー企画とともに導入した。このシステムの導入については23万5千円の費用がかかる。

・中部支部，地域連携関係

塚本担当理事より，次の報告があった。

1) 支部大会および支部幹事会，支部総会，三重水産フォーラムを12月2日に開催した。

2) シンポジウム「三重県における貝類増養殖の課題と展望」を12月2日に開催した。

・近畿支部，地域連携関係

荒井(修)担当理事より次の報告があった。平成28年度日本水産学会近畿支部特別講演会「先達の知恵と経験を若手・中堅水産研究者と技術者へ」および高校生のポスター発表を12月10日に開催する。高校生のポスター発表（5件）は初開催である。

・中国・四国支部，地域連携関係

山本担当理事より，次の報告があった。平成28年度日本水産学会中国・四国支部例会，幹事会，総会，ミニシンポジウムおよび高校生によるポスター発表会を12月2日・3日に岡山市で開催した。口頭発表22件，ポスター発表12件，5件（高校生のポスター発表（5件））参加者総数36名であった。受賞に関する条件として，共同発表者に学会員を含めることを決定した。

・九州支部，地域連携関係

中田担当理事より，次の報告があった。平成29年度日本水産学会九州支部支部大会・総会・例会を12月2日・3日に開催した。一般発表19題，高校生のポスター発表7題であった。シンポジウム「海洋生物の生理生態に及ぼす環境変動の影響 ～今，東シナ海で起きていること～」を12月3日に開催した。参加者総数58名（学生31名）で，そのうち女性18名であった。

・英文書籍監修委員会（特別委員会）

佐藤担当理事より，9月に「Rotifers」が刊行され，次に竹内会員が編集したものが刊行予定との報告があった。

・東日本大震災災害復興支援検討委員会（特別委員会）

山下(洋)担当理事より，次の報告があった。

1) 3月30日にシンポジウム「原発事故7年後の現状と課題」を実施する。

2)日本原子力学会が行っている連絡会のワークショップが9月に行われ,森田委員が参加した。

・水産学若手の会

塚本会長より,次の報告があった。日本水産学会創立85周年記念国際シンポジウムにおいてイブニングセッションを実施した。参加者数53人の内,20名が日本人であった。9月23日に委員会を実施した。ホームページの更新や月刊養殖ビジネスに寄稿など活動している。

・日本水産学会創立85周年記念事業委員会(特別委員会)

青海担当理事より,次の説明があった。記念式典,国際シンポが終了した。日本水産学会85年史の編纂を今後すすめる予定。決算を12月25日に行う。

・財務検討委員会(特別委員会)

萩原担当理事より,経費削減について委員会の人数の削減などの試算を実施中であるとの報告があった。

・水産・海洋科学研究連絡協議会関係

黒倉担当理事より,次の報告があった。平成29年度第2回協議会が10月31日に開催され,日本学術会議主催シンポジウム「沿岸地域を再生させるための水産業を考える」,名古屋議定書,水産・海洋科学研究連絡協議会の平成30年度以降の継続について議論された。

その他確認事項

・事業計画・予算書及び事業報告・決算報告の提出日程について

良永総務担当理事より,平成29年度の決算処理等の日程について説明があり,日程に沿って各支部,懇話会及び委員会は対処するよう依頼があった。

・引き継ぎ事項について

良永総務担当理事より,次年度への引継ぎ事項について提出するよう依頼があった。

・次回の理事会について

良永総務担当理事より,平成29年度第7回理事会を2月10日13時より東京海洋大学品川キャンパスで開催するとの説明があった。

以上をもって議案の審議等を終了したので,15時44分,議長は閉会を宣言し,解散した。

以上,この議事録が正確であることを証するため,出席した議長(代表理事)及び監事は記名押印する。

平成29年12月10日

公益社団法人 日本水産学会

議長 会長(代表理事)

監事

監事